

# キャリアに拓く 1年生の活動



鳥取大学附属という環境を生かして子供のキャリア形成を目指していく活動、「キャリアに拓く」。1年生は、11月29日に地域学部に行き、附属小学校の教育活動に日ごろからお世話になっている4名の先生方のお話をうかがったり、体験をさせていただいたりして学習を深めました。

書写教育専門の先生の部屋では、「グループで協力して1つの文字を書いてみよう」という活動を行いました。4人グループは4画の文字。5人グループは5画の文字というように、グループで協力して1つの文字を選び、筆順にそって順番に協力して1つの文字を書いていきました。その中で、友達と教え合って1つの文字を完成させたり、最後まで書いたりすることの大切さを学びました。



保育・幼児教育専門の先生の部屋では、保育園・幼稚園の先生になるために大学生がどんなことを学んでいるかという話を聞いたり、実際に赤ちゃん人形を使って、赤ちゃんの抱き方、ミルクのあげ方、おむつの替え方などを教えてもらったりしました。また、絵本の読み聞かせの仕方や幼児が遊ぶおもちゃの対象年齢などについても、理由も添えて分かりやすく説明していただきました。その後、赤ちゃん人形の抱っこ

体験、幼児のおもちゃで遊ぶ体験をしました。子供たちは、赤ちゃんの本当の重さに驚いていました。

図工の教育・研究専門の先生の部屋では、まず、教育と研究の違いについて分かりやすく説明していただきました。また、子供たちに身近なクレヨンとパスについて、その違いやそれぞれの特徴について学びました。その後、パスの特徴を生かして混色をし、「自分だけの味」の飴を描きました。子供たちは、色の混ざり具合や出来上がった色に興味津々でした。



鳥取砂丘を中心とした地形専門の先生の部屋では、実験を中心に、水と砂、地形について学びました。水と砂を揺らしてできる砂紋の実演を見せてもらったり、筒の中で下にたまった砂をひっくり返すとき、どうしたら砂が速く落ちるか予想しながら実験をしたり、砂を傾けたときの角度と富士山の傾斜を比べたりしました。子供たちは砂の不思議について、どうしてそうなるのか興味をもっていました。

先生方みなさんが、体験活動を取り入れたり、事前の準備を入念にさせていただいたりして、1年生に合うように考えてくださっていたので、話だけでは理解が難しい内容でも、興味をもって聞くことができました。初めて大学の中に入った子供たちがほとんどで、子供たちも、それぞれの研究室の先生方の話や体験活動に興味をもって取り組み、もっと知りたいことや疑問に思ったことを質問していました。「絵をかくのが苦手だったけれど、大学に行ったら絵の勉強をしてみたい」、「大人になったら保育士になりたいから保育士のことが分かった」など、自分の将来について考えた子供もいました。